

**出穂期は「はえぬき」では過去最も早く7月30日となりました！
「つや姫」では8月7日頃と見込まれます！**

出穂後のきめ細やかな水管理を徹底しましょう！

1 出穂の状況

管内の出穂期は7月30日と平年より6日早く、8月1日現在の出穂面積割合は約7割と過去に例のない進捗となっています。生育診断圃の出穂期は「はえぬき」で7月29日（平年8月4日）、「雪若丸」で8月1日（平年8月4日）であり、「つや姫」は8月7日頃（平年8月10日）と見込まれます。このまま推移すると、高温登熟の懸念があり、刈取りも早まると考えられます。

表1 品種ごとの出穂の状況

ふくひびき	はえぬき	雪若丸・ひとめぼれ	つや姫
7月26日	7月30日	8月1日	8月7日(見込み)

2 今後の気象予報

1か月予報（気象庁7月29日発表）によると、期間の前半は気温がかなり高く、向こう一か月の気温は高い確率が70～80%、日照時間が多い確率は40%、降水量は少ない確率が40%と予報されており、高温・多照・少雨で経過する見込みです。

3 これからの水管理 ～時期に合わせたきめ細やかな水管理を！～

- 出穂・開花期は稲体が最も水を必要とする時期です。出穂期～出穂後7日間程度は冷たい水との入れ替えを行いながら2～5cmの水深で湛水状態を維持しましょう。
- 穂揃期以降は間断灌水（2湛2落）や飽水管理を行い、酸化的な土壌条件で根の活力を維持しつつ、登熟を促進しましょう。
- 出穂後に強風やフェーンに遭遇すると、白穂や枝梗枯等が発生する可能性があります。強風が予想される場合は湛水し稲体を保護しましょう。

4 病害虫の発生に注意！

【穂いもち】

7月28日発表の病害虫予察情報発生予報第5号によると、穂いもちの発生量は「やや多い」と予報されています。葉いもちの上位葉での発生は穂いもちの発生につながるため、圃場をよく観察し、確認したら直ちに防除を実施しましょう。

【斑点米カメムシ類】

同発生予報第5号によると、斑点米カメムシ類の発生量は「多い」と予報されています。また、7月21日に発生量「多い」として注意報第2号も発表されています。穂揃期及び穂揃期7～10日後の2回の基本防除を徹底してください。なお、出穂が早まっていることから、出穂状況に合わせて、適期に防除するようにしてください。



図1 葉いもちの病斑

